

皆さまのご支援で、  
こんな活動をしています。

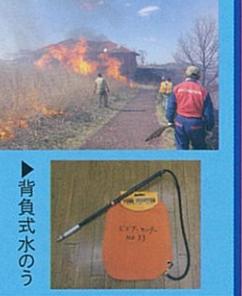
## くじゅうファンクラブ活動情報

\* 平成28年5月31日から、「くじゅう地区管理運営協議会」の通称名称が、「くじゅうファンクラブ」となりました。

### くじゅう連山各所で野焼きが行われました！

3月上旬より久住高原各所で、飯田高原側では3月22日やまなみハイウェイ沿い・大将軍、4月5日タデ原湿原、4月11日泉水山で野焼きが行われました。今年は週末ごとお天気が崩れたため、野焼き活動が4月にずれ込みました。野焼きは枯れた草木に火をつけて焼き払い、草原景観を保つために必要な活動です。タデ原は火をつけてからおよそ2時間程度で一面真っ黒な大地になりました。

野焼き活動に欠かせないのが、消火のための用具「背負い式水のう」です。背負式水のうは、水を入れた袋をリュックサックのように背負い、大きな水鉄砲のようなノズルから水を噴射する道具です。令和元年度は皆様の寄付を利用して、背負い式水のうを33基購入し、活用することができました。ありがとうございました！



### くじゅう連山の道標を3基交換しました！

くじゅうファンクラブでは毎年数基ずつ、破損したりわかりにくかったりする道標を作り直して交換・設置をしています。新しい道標には、ローマ字表記を併記し、現在地の地名を記すなど、登山者のニーズに基づいたものになるように配慮しています。重い道標を担いで山に登り、穴を掘って建てるのは、かなりの重労働ですが、今年はくじゅうネイチャーガイドクラブの協力で設置交換をすることができました。今年度の交換箇所は、稻星越・御池・ソババッケの3基です。落書きしたりシールをはつたりせずに、大切に使っていただきたいと願っています。くじゅうファンクラブではこれからも登山者の皆さんが安全に登山を楽しめるよう、道標の交換・設置をすすめていく予定です。



### 長者原ビジターセンターの段階的な利用再開のお知らせ

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、人が長時間滞在・密集する恐れるあるシアタールームの使用制限、及び一部の展示機能を縮小しておりましたが、6月19日より全国的な県境を越えた移動自粛が解除されたことを受けて、下記の通り長者原ビジターセンターの利用を\*再開いたします。

- ◆ 展示見学：1階、2階ともに可能。  
但し団体利用の場合、最大10名程度ずつ人数制限あり。
- ◆ ハイビジョンシアター：検温をしたうえで1回10名程度まで利用可能。
- ◆ 国立公園レクチャー：ハイビジョンシアターでは検温をしたうえで10名程度まで可能。屋外は可能（但し間隔をとって座ること）。

\*6月19日時点での決定であり、変更することがあります。また検温は基本的にビジターセンター側で行います。

長者原ビジターセンター入場時には、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、入口に置いてあるアルコール消毒スプレーの使用や、マスクの着用にご協力をお願いいたします。

### 立中山ミヤマキリシマ群落の山火事

2020年4月11日、くじゅう連山のほぼ中央部にある立中山（たつちゅうさん、標高1,465m）で山火事が発生しました。昼過ぎに発生した山火事は、およそ2時間にわたって付近のミヤマキリシマ群落約1ヘクタール（10,000m<sup>2</sup>）を焼き、防災ヘリの散水でようやく鎮火しました。立中山はくじゅうファンにはよく知られたミヤマキリシマの名所。今でこそ、有名な平治岳などに押されがちですが、昭和30年代の本には「山頂のミヤマキリシマの群落は素晴らしい、大船山の段原と共にツツジでは九重の両横綱と云つてよい。足弱の人で大船山へは無理になる人にとって一番勝れたつじ鑑賞地である。」（「九重山」；しんづくし山岳会）と書かれています。

▲被害を受けたミヤマキリシマ群落。新緑の季節に緑は芽吹かず、黒い景色が広がっていた。

ミヤマキリシマは、九州の山岳地帯に自生するツツジ科の植物で、火山性の荒地に群落をつくることが多く、土壤が発達して他の植物が育っていく場所では、だいに衰えていきます。立中山の群落も、一部ではノリウツギなどの植物に被压され、往時の勢いを失っていますが、今回焼けたのはまだまだミヤマキリシマが頑張っている範囲でした。

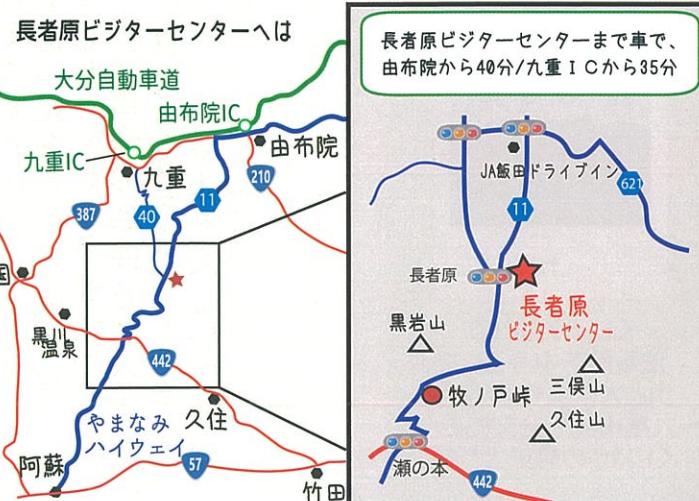
竹田市、環境省、当協議会などによる焼け跡の合同調査（5月12日）では、ノリウツギがいち早く再生しているようですが確認できました。このままノリウツギが大きくなれば、ミヤマキリシマは育つことができず、現地はノリウツギ林へとかわってしまう可能性があります。それはそれで自然界の遷移の通りかもしれません、先人が愛したミヤマキリシマ群落が人間の過失によって失われてしまうことになります。今後の推移を見守りながら、何らかの保全活動を行うかどうか、今後検討することになります。



▲(左)白口岳から見下ろした立中山。(右)立中山のミヤマキリシマ。いずれも2018年6月撮影。

今回の火災の原因は、ガスバーナーからの延焼です。屋外で使う際には、①燃えやすいものが周囲になく、②倒れにくい安定した、③風が当たらない場所に設置し、①～③を満たせない場合や人が多い場所では使わないことが基本的なマナーです。

くじゅうファンクラブでは、上記のような教育普及・啓発活動、自然環境保全・調査活動、登山道等管理活動を実施しています。活動に賛同してくださる賛助会員（個人一人口3,000円／年、団体一人口10,000円／年）や寄付を募集しています。賛助会員の方には、会員証の発行ほか、缶バッジのプレゼント・お便りの送付などの特典を用意しています。詳しくはくじゅうファンクラブホームページ（左端にQRコード記載）をご覧ください。



### くじゅうだより2020夏号

発行元：くじゅうファンクラブ  
(くじゅう地区管理運営協議会)

879-4911 大分県玖珠郡九重町大字田野255-33  
長者原ビジターセンター

TEL & FAX 0973-79-2154

くじゅうファンクラブホームページ：  
<http://kujufanclub.com/>

★くじゅうの最新の自然情報  
などはフェイスブックで！  
<https://ja-jp.facebook.com/choujabaruvisitor/>

★活動報告やくじゅうの基本情報  
などはくじゅうファンクラブ  
ホームページで！  
<http://kujufanclub.com/>

### リレー式 職員からのひと言

今年は新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言で、大好きな登山や散策を自粛された方が大変多かったのではないかと思います。スタッフもこんなときだからこそ、皆さんに何が届けられるかを真剣に話し合いました。このお便りも、読み物として自宅で楽しんでもらえるようにと作成したものです。ビジターセンターも感染防止対策をとったうえで、再開することになりました。ぜひまたくじゅうに遊びにおいでください！（種村）

阿蘇くじゅう国立公園長者原ビジターセンターからお届けする

# くじゅうだより

TAKE  
FREE!

## 山の日特集 登山とくじゅう連山の歴史編

くじゅうを  
知ろう！

2020 夏号

表紙写真：正保三年（1645）のくじゅう連山の絵地図の写し

8月11日は、国民の祝日「山の日」です（2021年）恩恵に感謝する日として制定されました。全国大会おおいた」は、2021年に延期になりましたが、くじゅう連山の山岳信仰の歴史

## 【登場のはじまり】

山は水がはじまるところであることから、古くから水分神（みくまりしん）がいると考えられ、各地で水源信

くじゅうでは、中岳直下の御池（みいけ）が隣接する空池より標高的に高い場所に位置するにもかかわらず年中涸れることがないことから、水源信仰の対象となりました。

もともと火山を始めとする自然は恐ろしく、人が命を落とすような大きな力をもつたものと考えられていますが、仏教が伝来することで、あらぶる神は仏の慈悲によつて鎮められるようになつたといいます。大分県は国東半島を中心に、山の岩に仏の像を掘りこんだ摩崖仏が日本一存在することでも知られていますが、山の神が穏やかな仏の表情をして現れた姿が各所でみてとれます（神仏習合）。

最澄や空海などが<sup>800</sup>年以降に密教の考え方（即身成仏..いま生きているこの身のまま、仏になることができる）を日本にもたらすとともに、山林を歩きまわることで、自ら悟りを開こうとする行為が盛んにおこなわれるようになつた。

なり、全国各地で山岳信仰が栄えました。現代のような形で山を歩くという行為の始まりは、山岳信仰が始まりだつたといえるかもしれませんね。

は、山に親しむ機会を得て、山の定だつた、「第5回山の日記念ちなんで、登山がどのように始ます。

## 【くじゅう連山の山岳信仰】

くじゅう連山でも中岳直下の御池を中心には、山岳信仰が栄えました。文献では特に法華院（ほつけいん）、猪鹿狼寺（いからじ）、金山坊（きんざんぼう）の3つの寺院についての記録が残っています。

文政六年（1823）に記録された別冊旧記録では、「久住山は、九州第一の高山靈水である」ことや、くじゅう連山南麓に位置する猪鹿狼寺について、「伝教大師が延暦二三年（785）に、渡唐帰朝の際に持ち渡した十一面觀世音を安置し、大和山慈尊院と号したこと、「山を上宮と崇め、下宮の本宮を嶽宮と号した」と、「坊中十六院があつた」と、「天正年中（1573～1593）の兵乱により、坊中は残らず退転してしまい、次第に衰微した」となどが記載されています。当時山中に十六院のお寺が栄えていたとは驚きです。



### ▲中岳直下の御池



猪鹿狼寺の寺号

## ▲別冊旧記録(文政6年(1823))

う連山の南側に立山道沿いに残つ寺号は動物の名な名前ですが、別に火を放ち、獲射る軍事演習)に射る軍事演習)に蘇大宮司家が古に下野の狩りの訪地であつた久住行つたところ、おびただしい獲物がとれたことから、畜類供養としての頼朝公の寄付に恩徳を感じて、猪鹿狼寺と改名したとあります。草原での牧狩りと山岳信仰の関係が見えてくる興味深い史料です。



▶下野狩図(貞享元年(1684))



### ▲九重山記(明和7年(1770))



硫黄山の硫黄

# 〔法華院と九重山記〕 ほけいん

（1470）といわれています。この法華院には「九重山記」という、明和七年（1770）法華院院主に招かれた芳梅聞が、法華院に登詣したおりの見聞をまとめて記した古文書が伝わっています（全長約9.4mの巻物）。当時の法華院周辺の様子や、寛文年間に院主勝光院豪尊が峰入りしていることなどが記載されています。

◆硫黄山の硫黄



正保二年(1645)肥後藩領から見た、くじゅう地域を描いた絵図の写し  
(長者原ビジターセンター展示中)

## 金山坊の登場と きんざんぼう

享保六年（1721）の玖珠郡田野村  
村鑑帳では、硫黄山の燃えているところ  
に、九重山大明神を崇めており、この山  
を九重山法花院（法華院）花水寺といい、  
守山伏の金山坊も麓の村の中にいる、と  
記録されています。寛永九年（1632）  
に、火薬の原料となる硫黄の産出をめぐ  
つて、天領（金山坊）・岡藩（法華院）・肥後  
藩（猪鹿狼寺）で硫黄山を三分割する出  
来事が発生しており、寺院が山岳信仰を  
保持しつつも、山上における硫黄の見張  
り役を行つて、そこをめぐります。

【明治時代を境に】

明治時代以降、神仏分離が行われ、くじゅうだけでなく全国の山々で山岳信仰の拠点であつた多くの寺院がなくなつてしましました。くじゅう連山の各所では、現在も山岳信仰の名残である祠の跡や、石碑、仏像などが点在しています。レジヤーとしての登山も楽しいですが、かつての神聖なくじゅうの山の歴史に思いをはせてみると、また違う感覚で山を楽しめること思います。

